

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年10月15日

枚方市立蹉跎西学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率（対全国比）をお知らせします。

令和6年度 平均正答率 対全国比		国語	算数
蹉跎西	小学校	0.90	0.91

<学力調査結果の概要>

○国語について

→目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては成果が見られたが、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることには、課題が見られた。

○算数【数学】について

→二つの数量の関係を式で表す問題や、図形について言葉と式を用いて説明する問題では成果が見られたが、グラフを読み取る問題やわかったことを利用し、発展的な問題を解決する問題では課題が見られた。

国語科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要（見出し）

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

ア きょうごの作戦を考えたりします。

上級生が遠くからボールを イ 上げる

三 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた。部ア、イを漢字で、いかに書きましよう。

	正答率	無回答率
本校	52.1	8.5
大阪府	41.4	12.8
全国	43.4	13.2

考察

この問題では、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力が求められる。そのためには、文章の中で使われている漢字の意味を理解する必要がある。

本校の児童の正答率は、52.1%と大阪府や全国の平均より高い。普段の漢字学習において、新出漢字を使って文を作ったり、声に出して読んだりする活動を通して、定着してきていることが、結果としてうかがえる。

問題の概要（見出し）目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

【高山さんの文章】

みんな仲よし「たてわりはん」
わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人も仲良く なります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの方を教えたり、下級生も同じように、ア きょうごの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして面白い」という2年生や、「下級生と しょにんてんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになる ところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休みの日に「たてわりはん」で遊ば 活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを 下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジ ボールでは、上級生が遠くからボールを イ 上げるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

- 「たてわり遊び」について
6年生がくふうしていること
○遊びたいことを下級生に聞く
○ルールをくふうする
ドッジボール 上級生は遠くからボールを上げる
下級生に聞いたこと
○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
○4年生 みんなが楽しそうであつた

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の ア「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、 イ「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、 イ「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、 イ「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。

	正答率	無回答率
本校	54.9	5.6
大阪府	53.7	5.0
全国	56.6	4.9

考察

この問題では、事実と感想、意見とを区別して書くなどして書き表し方を工夫することが求められる。そのためには、6年生や下級生に聞いたことをもとに、「たてわり遊び」のよさなどについて自分なりの意見を書く必要がある。

本校の児童は、大阪府より1.2ポイント上回っており、普段の国語の学習において、目的や意図に応じて自分の考えをまとめる活動をおこなうことで、このような力を養えていることが結果としてうかがえる。

算数(数学)科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要(見出し)
数量の関係を、□を用いた式に表す

(2) たくみさんは、はじめに折り紙を何枚か持っていました。
ゆうまさんから38枚もらって、全部で62枚になりました。
このことを、たくみさんがはじめに持っていた折り紙の枚数を□枚として式に表します。
下のアからエまでの中から、正しい式を1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア $62 + 38 = \square$
- イ $\square + 38 = 62$
- ウ $\square - 62 = 38$
- エ $\square - 38 = 62$

	正答率	無回答率
本校	91.5	0.0
大阪府	88.1	0.3
全国	88.5	0.3

考察

この問題では数量の関係を理解し、未知数□を用いてその関係を式に表す必要がある。正答率が全国平均を上回り、無回答率は0%であった。問題文と式の関係の的確に読み取ることができていると考える。

問題の概要(見出し)
角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する

(4) ことねさんたちは、角柱の面の数について考えています。



三角柱



四角柱



五角柱



ことね 三角柱の面は5つです。三角柱には、底面が2つ、側面が3つあるからです。



はると 四角柱の面は6つです。



ひより 五角柱の面はいくつかな。

五角柱の面はいくつですか。答えを書きましょう。
また、そのわけを、底面と側面がそれぞれいくつあるのかわかるようにして、言葉と数を使って書きましょう。
そのとき、「底面」、「側面」の2つの言葉を使いましょう。

	正答率	無回答率
本校	73.2	2.8
大阪府	71.8	1.9
全国	72.0	1.8

考察

図形の構成要素や用語、その特徴を理解する必要がある。また、それが図形の定義や特徴に直結することから、空間図形を正確に認識することが求められる。

本校の児童は、全国平均を上回っているが、無回答率から図形の問題に対し、苦手意識を持っている児童が一定数いると推察される。具体物を用いた指導の成果を確認できるが、苦手意識を持つ児童に対する指導方法は検討の余地がある。

質問紙調査の結果

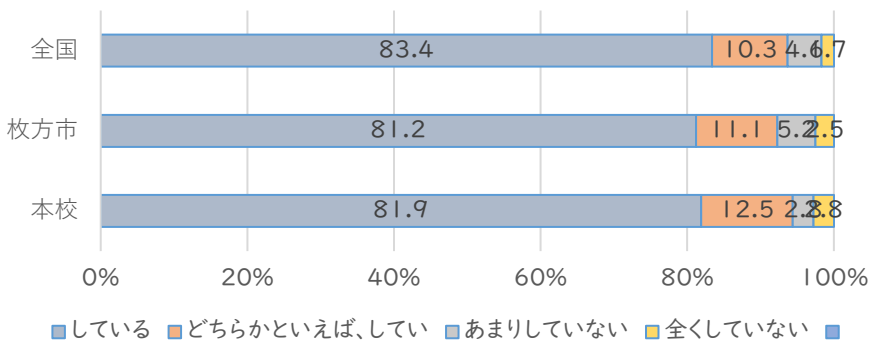
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果が見られた項目】

質問内容～朝食を毎日食べていますか～

朝食を毎日食べていますか

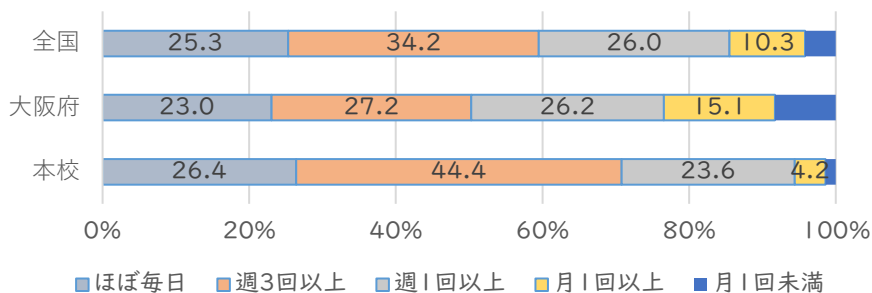


(考察)

肯定的な回答が約94%と高い結果となった。子どもたちが日々の学校生活を充実させていく上で、朝ごはんを食べるという習慣は大変重要である。この結果は、何より保護者の皆様が日頃から子どもたちの生活習慣をサポートしてくださっている結果と考えられる。引き続き、ご協力をお願いします。

質問内容～5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか～

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



(考察)

本校の授業におけるタブレットなどICT機器の使用頻度は、週1回以上使用が約94%と全国や大阪府と比較して、非常に高い結果となった。普段の学習において、タブレットが情報の検索だけでなく、自分の考えをまとめたり、他者と共有したり、それらを発表するためのツールとして定着してきており、児童もその有用性を実感できていると思われる。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

○Hirakata授業スタンダードに基づき、授業の中では「課題に向き合う」「自分の意見をもつ」「意見を交流する」「意見や考えを基に話し合う・発表する」「考え、分析し、判断する」時間を効果的に取り入れます。

→「主体的・対話的で深い学び」へとつながる授業を行う。

○算数の授業では、友だちとの学び合い活動を取り入れ、「分かったこと」を活用して類題や関連する問題を解く時間を確保します。

→活用に関する学力向上につなげる。

○国語の授業では、校内研究での授業改善により、授業において興味を持った内容について、児童が調べ、それを友達と共有できる「協同的な学習の時間」を授業の中で設定します。

→児童の実態に沿った必然性のある学びにつなげる。

○校内研究授業及び研修会、教員同士の交流の場、相互授業参観等、教員の取組の充実を図ります。

→教師の授業力向上を図る。

○読書に関する行事や取組（読書ノート・朝読書・読み聞かせ・絵の本広場等）を実施します。

→読書量を増やし、語彙力の充実と想像力の涵養を図る。

(2) 家庭学習について

➤ 「家庭学習の手引き」に基づき、引き続き宿題の定着を図っていきます。具体的には、宿題や課題をやり遂げ忘れず提出できるように指導していきます。また、授業と家庭のシームレスな学びを実現するため、家庭とも協力しながら、より効果的な家庭学習を進めていきます。

→家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。

➤ 1年生からAIドリルNAVIMAを活用し、基礎的な知識・技能の定着につなげます。

→ICTの活用能力の育成とともに、学びの個別最適化をめざす。

➤ 3～6年生で取り組んでいる自主学習を充実させていきます。児童が興味を持った内容について積極的に調べたり、学校での学習内容から更に広げて学びを進めていったりすることができるように指導していきます。

→「自主的に学ぶ力の育成」をめざす。